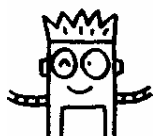


## あまくさしろう 天草四郎は、どんな人だったの



天草・島原の一揆のリーダーとなった美少年だよ。

### 武士出身の隠れキリシタンの子だった

天草四郎は、本名を益田四郎時貞ますだしろうときさだといい、1623年に生まれました。父の益田甚兵衛じんべえは、キリシタン大名の小西行長こにしゆきながの家臣で、1600年に小西家がほろびると、農業をしてきました。四郎は長崎で学問をし、宣教師せんきょうしからキリスト教を学び、その後は熊本や長崎で、奉公人ほうこうにん(武家や商家にやとわれて働く人)をしていました。一揆が起こる直前には、父親といっしょに天草に来て、布教活動を行い、キリシタンをやめた人を、ふたたびキリシタンにもどすことに、努力していたようです。

### 一揆のリーダーとなった

1637年、天草・島原地方の農民が、領主のきびしい年貢ねんぐの取り立てにおこつて、一揆を起こしました。農民の多くはキリシタンだったので、さまざまな奇跡きせきを行うことができ、美少年だったといわれる四郎は、「神の使い」としてあがめられ、農民を団結させる精神的な柱、リーダー的な人物となったようです。しかし、一揆軍は、島原城・富岡城とみおかじょう(天草上島あまくさかみしま)の城攻めしるぜに失敗しました。そこで、島原半島南部の岬みさきにある原城はらじょうあと(長崎県南有馬町みなみありまちょう)を修理して、3万7000人をこえる人々が、立てこもることになりました。

### 原城の落城らくじょうで殺された

幕府方ばくふがたの諸大名しよだいみょうによる攻撃こうげきは、12月10日から始まりました。一揆軍は、ねばり強く戦いましたが、翌年よくねん2月28日に、落城しました。戦死しなかった人も、全員殺され、四郎も、細川家ほそかわけの侍さむらいに殺されて、首を取られました。